

編集後記

■編集委員 (50 音順)

出 月 康 夫
白 日 高 歩

北 島 政 樹
堤 治

北 野 正 剛
万 代 恭 嗣

小 西 文 雄
東 原 英 二

本号の特集は「肝疾患に対する内視鏡下手術の Up to Date」である。各外科領域で minimally invasive surgery が取り入れられ、内視鏡下手術が行われるが、他領域、特に婦人科に属するものからみると、肝疾患に対する内視鏡下手術の進歩は誠に驚嘆に値する。本後記の筆者が学生の頃は、肝切除術は開腹でも多量の出血を伴い、きわめて難度の高いものと見聞きしていた。本特集では肝切除術はもちろん、肝細胞癌においても適応とされ実績を上げていることがわかる。隔世の感があるのは、超音波凝固切開装置など周辺機器の進歩に支えられている部分もあろうが、この領域をリードする先達の努力の賜物と敬意を表するものである。

内視鏡下手術は三次元の臓器を二次元のモニター上に映しだし、閉鎖された空間のなかで多くの場合特殊な周辺機器を用いて行われる。昨今、医療に関して様々な問題がメディアでも取り上げられている。内視鏡下手術について、その低侵襲性や有用性が広く国民に理解される機会としては歓迎すべきであるが、報道される事例のなかには安全性について誤解を招きかねないものもあり、内視鏡下手術の健全な普及に合致しないものもある。内視鏡下手術には周辺機器の理解、高度な技術が要求されており、教育やトレーニングの必要性を痛感する。各領域で一定のレベルの基準を設定し、さらに技術を高めていく必要がある。それに際して、学会や学会誌の果たすべき役割は大きいと思われる。

日本内視鏡外科学会において技術認定制度設立の動きがあると聞く。外科、消化器外科、呼吸器外科、小児外科、泌尿器科、整形外科、産科婦人科など多数の分野にまたがり、各科で一定以上の高い基準を満たした者を技術認定するものと思われる。認定方法など各科間の調整が決して容易ではない部分も存在し、専門医制度との関係など不明な点もあろうが、学会が共通の基盤、基準で取り組むことは高く評価されよう。また、わが国における内視鏡下手術の健全な普及と進歩を促し、ひいては国民の健康、福祉に貢献すると大いに期待され、実現が待たれる。

(堤 治)

日本内視鏡外科学会雑誌 (第7巻 第5号) 2002年10月15日発行・隔月刊

Journal of Japan Society for Endoscopic Surgery (Tokyo)

1 部定価: 会員には毎号送付されます。その他については、1 部定価 (本体 2,700 円 + 税) となります。

2002 年 年ぎめ予約購読料: 16,500 円 (配送料: 医学書院負担)

編集・発行: 日本内視鏡外科学会 (代表: 出月康夫)

〒113-8622 東京都文京区本駒込 5-16-9 (財)日本学会事務センター内

(☎ 03-5814-5801 Fax 03-5814-5820 担当: 佐々木) <http://www.hop.ne.jp/~jses/>

Published by Japan Society for Endoscopic Surgery, 5-16-9 Honkomagome Bunkyo-ku, Tokyo, 113-8622, Japan

©2002, Printed in Japan

発 売: 株医学書院 (代表: 金原 優) (本誌担当: 田村, 中田) <http://www.igaku-shoin.co.jp/>

〒113-8719 東京都文京区本郷 5-24-3 (振替口座 00170-9-96693 番)

本誌編集室直通 ☎ 03-3817-5707 (Fax 03-3815-7802 E-mail: jses@igaku-shoin.co.jp)

販売部直通 ☎ 03-3817-5659・5660 (Fax 03-3815-7804)

印刷所 横山印刷株 ☎ 03-3622-6161 (Fax 03-3625-1591)

広告申込所 (株)文栄社 ☎ 03-3814-8541 (Fax 03-3816-0415)

本誌の内容を無断で複写・複製・転載すると、著作権・出版権の侵害となることがありますのでご注意下さい。